

産官学連携した商材開発を積極化に

新型インプラント開発に着手

ダイヤ工業 グローブの引き合い順調

医療・介護用品製造販売のダイヤ工業(株)(岡山市北区大福1253、松尾正男社長、電086・282・0377)は、昨年実用化した人工筋肉で握力を支援する「パワーアシストグローブ」に続き、岡山大、岡山県産業振興財団と連携し、経済産業省の支援を受け、新型のインプラント(人工歯根)の開発に着手した。同社はサポーターなどの開発販売を主力にしているが、将来的に、産官学連

発は、インプラントに特殊なコーティングを施し、炎症を防いだり、骨の再生を促し定着しやすくする技術で、経済産業省から、3年間で9500万円の補助金を受け、2018年の市場

投入を目指す。
松尾健哉・取締役本部長は「医療機器は輸入する傾向がある中、国産の商材の浸透を図りたい。弊社としても社会貢献活動として今後も共同開発の案件には積極姿勢で臨む方針だ」と話している。
同社は1963年4月設立。資本金1千万円、パート含めた従業員は84人。年商は30億5800万円。



携の特殊な医療商材も一つの柱に育てる方針。

今回の開



岡大と共同開発したパワーアシストグローブ、円内は松尾取締役本部長